

平成 28 年度 記者懇談会（第 5 回）の記録

日 時 平成 28 年 8 月 26 日（金）午後 3 時 30 分
場 所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数 8 人
同席者 阿部副市長、天野副市長、総務部長
次 第 1 一期目の任期を終えるにあたって
2 その他について



1 一期目の任期を終えるにあたって

説明内容

(市長)

任期最後の記者懇談会になりますので、ご挨拶方々お話をさせていただきます。とは言ってもこういうことを具体的にという話す内容を決めているわけではございませんので、いろいろご質問いただければなと思っております。

お陰様で4年間市政に全力で取り組ませていただきました。4年前の選挙の際に元気八策ということで公約を掲げさせていただきました。これまで、その元気八策をもとに予算では4つの重点分野ということで、着実な事業展開を図ってきたところでございます。

この間、当面の課題でございました、例えば学校給食ですとか、ごみ処理場の問題とか、さらには大雪の後を受けた雪対策ですとか、いろんな課題があったわけですがどれも速やかな方向性を定めて事業に着手するとともに新たな取り組みもいろいろ行っていました。

忘れもしないのが、就任3日後に起きた南利根別川の雨水です。やはり市民の皆さまの安全・安心をどう守っていくのかというのが市役所の最大の課題ということで認識をした次第です。以来、ハザードマップをはじめ水害対策の拡充を進めてまいりました。お陰様で南利根別川は既に北海道庁によります改修工事の2年目を迎えています。これからも南利根別川のほか順次市内を流れる中小河川の改修ということも予定をされています。

さらには子育て支援ということでは、やはり若い方々の結婚あるいは子育ての希望を叶えるという意味では先駆的に取り組んでまいりました。お陰様で相談体制も含めて拡充を図ることができ、3月にはあそびの広場もオープンいたしまして、いよいよ「えみふる」として母子の保健あるいは子育ての相談・支援、そういったものを一つの拠点施設で行うことができるようになりました。

また、産業・経済の分野では中心市街地の活性化について具体的な事業に着手するというようなことで取り組みました。まちなか活性化計画、さらには中心市街地の基本計画を定めまして事業展開を図ってきたところですが、空き店舗等の課題もございしますが、まずは定住人口を増やすというようなことでも具体的な事業にも着手をさせていただいたところです。

また基幹産業である農業の振興については一番早く取り組んだのが、精米施設の建設です。北海道で一番の作付面積、収量ともに北海道一を誇る岩見沢のお米、それをブランド化する、そういった意味では年間6千トンの能力を持つ精米施設を市営で建設もいたしました。その後、ICT農業の展開、スマート農業ということで、日本で最先端の取り組みも展開することができました。岩見沢の農業の現状を考えたときに、土地利用型の農業、さらなる経営の効率化や生産性の向上を図るためには避けては通ることができない課題だというふうに認識をしています。RTKの補正局を市内3か所に設置するとともに13台の気象ロボットの設置をいたしました。ビックデータをオープンデータ化して農家の方々にご提供するとともに現在誤差3センチでトラクター

の自動走行も可能な環境になっています。これは日本最先端ということでもいろいろ評価をいただいているところでもございまして、有難いと感謝もしているところでもございます。これは取り組むに当たっては市役所がリードしたというよりはむしろ農家の方々の希望と市役所のサポーターのそれぞれお互いがパートナーとして取り組んだ事業の成果ということでもうれしく思っているところでもございます。さらには企業誘致をはじめ、ソーラーパネル、太陽光発電の誘致等々にも取り組むことができました。一定の成果も出てきたかと思えます。

それから今年は1月に定めました長期ビジョンと総合戦略をもとに、いよいよ本格的に地方創生に取り組む実行元年でもございました。4月からは、移住対策をはじめ、新しい施策にも多く予算を割いて取り組むこともできました。お陰様で昨年11月以降7月までの社会動態を見ると札幌への転出が大幅に減って、市外、道外からの転入が増えてきている。そしてうれしいことに14歳未満の子どもさんや20歳から39歳までの若い年齢の方々の転入が増えてきているというような傾向も出てきております。

さらには、教育施設の面においては耐震化が遅れていた学校教育施設については、中央小学校の改築をこれからやるところでございますが、それを除いてはスピードアップをして4年間で残りの耐震化が必要な学校施設については全て今年の南小学校で完了するというような状況を迎えることができました。

それから、福祉の分野では障がい者福祉計画、障がい福祉計画を策定いたしまして、まさに岩見沢市にとりましての共生社会の実現というようなことを受けて踏み出したところでもございます。

一定の総合的なバランスをとりながら事業のレベルアップ、市政のレベルアップに取り組めたというのが率直な感想でもございまして、特に財政環境につきましてはむしろ平成23年に比べるとあらゆるものが大きく改善をしてきているということでもございます。実質公債比率を大幅に下げることができたかと思えます。ごみ焼却場をはじめとする大型事業がございましたので、公債費総額は増えてはおりますけれども、実負担は12億円抑え込んで、言葉を換えれば12億円の負担は増えますけれども、70数億円のサービスを市民の皆さんに提供することができました。ごみの有料化も実施をし、お陰様でごみの総量自体は3割の減少ということで市民の皆さまのご協力に本当に感謝をするところでございます。

これからは、引き続き岩見沢市役所のステップのレベルアップということで市役所改革も進めてまいります。残念なことに事務処理のミスも相次ぎましたが、そういったものが発生しないようにリスク管理を徹底しながらまた市役所のレベルアップに取り組んでまいりたいと思えます。そういった意味ではこれまでの4年間の実績をスタート台として、階段を1段上がったところから2段目を目指すというか、ホップ、ステップ、ジャンプの2段目という言い方がいいのか、あるいはステップバイステップというか、一年一年、予算の議論、サマーレビューあるいはオータムレビューを通じて課題を先送りしないできちっとした形で事業展開するということが心掛けて取り組みをさせていただきました。そういう確かな実績と土台をもとに今後岩見沢市の魅力をさらに高めていく、あるいは魅力を発信していくといった取り組みにも邁進してまいりたいと思えます。

また、観光戦略についても3月にまとめさせていただきました。これは専門機関のJTB北海道さんと協力をして、連携をして具体的な方向性を出させていただきました。そういった意味では、新たな観光振興というような芽もこれから出てきているわけございまして、岩見沢の良さや強みを生かしたまちづくりをこれからさらに重ねてまいりたいというふうに考えているところでございます。いろいろ言えばきりがないくらいあるのかなという気もいたしますが、これからのまちづくりのキーワードはやはり「健康」という言葉も重要なキーワードになると思います。もちろん「情報」とか「環境」というものもあります。特に人口減少が岩見沢市における社会面あるいは経済面でどんな影響を与えてくれるのか、決してプラスの影響を与えないですからそれを克服するために岩見沢市はどうするのか、といったような観点で長期ビジョンと総合戦略を固めたところですが、その方向性の一つとしてはICT基盤をもっている、ビル型のデータセンター、クラウド型のデータセンターを持っている訳ですし、一元の光ファイバー網もあります。その中で培ってきた経験もあります。そういった物をフル活用して、また民間の方に開放して、そこで企業誘致一つにしてもお互いがパートナーとしてウイン・ウインの関係を築けるようなことを中心に岩見沢の発展にも少しは寄与できたのではないかとこのように思っているところです。

まさにこれからが第2段階というような時期を迎えているわけございまして、今後ともよろしくお願ひしたいなと思ひますし、お約束の定例記者懇談会をちゃんと毎月1回は開くことができたというようことは私自身も感謝をしているところでございます。以上でございます。

質疑応答

(北海道新聞)

市長に就任する前は岩見沢市職員として取り組まれてきたと思うのですが、トップになって大分環境は違うと思うんですが、その点については、どういうふうに心がけ、取り組まれてきたのでしょうか。

(市長)

率直な感想を申し上げれば、職員時代は内部管理部門が長かったので、そういった意味では市役所の全般についてある程度知識は持っているというふうに思っていました。実際に市長という立場になって、特に予算編成、サマーレビュー、オータムレビューを通してなんですけれども、仕事の実態というか、課題というか、そういったものをきちっと認識をしながら、自分自身の勉強だと思いながら取り組みました。そういった作業課程を通じて、例えば一つの目的をあるいは効果を求めるために、一つの事業だけではなくて、この事業とこの事業を組み合わせることによってより効果が上がる、そういう相乗効果とかシナジーといったものがより市役所の事業展開の中では意識するようになりました。

(北海道新聞)

当たり前ですけれども、仕事の仕方というのはがらっと違うわけですね。

(市長)

当然立場が変われば、立場が人をつくるというのもあるほどやはり同じ市役所の仕事のことでも、自分自身の心がけは当然のことながら違います。責任の度合いも違うわけですし。その中でより大きな、俯瞰的な視野でより大局的な視野で岩見沢市全体のことについていろいろ把握もすることもできましたし、ただそれをするためには具体的なことをしなければ、そう願っていてもできないわけなので、そういった意味ではサマーレビュー、オータムレビュー、予算議論というのは最初に申し上げたのは、市役所は市民のための仕事をするところだと、そのためには施策の質と量とスピードを上げましょうと、中でも一番重要視したのはスピードアップということでやりましたけれども、結果としてはスピードアップすることで質も量も上がってくるというようなことも自分自身では経験をしたところでもございます。もちろんできないこともあるわけですから。それはできないことはできないというふうにきちっとお伝えをするということも必要でしょう。そういった意味では市役所にとって都合のいいことばかりを言うのではなくて、都合の悪いこともしっかりお示しをします。ですから今日の最後の仕事は市政地区懇談会でこれが 43 回目です。43 回の市政地区懇談会を開かせていただいて、そういった意味では現場主義で市民の皆さまの生の声も直接お聞かせさせていただくような機会も作れたというふうに思っていますし、それを速やかに市役所の仕事に反映をするというような取り組みをさせていただいたかなと思っています。

（北海道新聞）

あらためてやり残したというようなことはございますか。

（市長）

やり残したことというよりは、自分の感慨としては 4 年間これだけのことをやったんだなという思いもやっぱりあります。ただ、もっともっとバージョンアップできるなという思いもあります。バージョンアップなのかレベルアップなのか言葉はそれぞれですけども、少なくともより太いベクトルで、よりレベルアップとバージョンアップをした仕事をこれから岩見沢市は進んでいくというふうに思っています。

（北海道新聞）

先ほど利根別川のお話をされたと思うんですけども、それ以外 4 年間で特に印象に残っているものを教えてください。

（市長）

就任して予算に直接的に反映した分野の仕事はやはり、子ども子育てです。ブックスタートと産前産後ヘルパー、あわせて障がいのある子どもさんたちの療養の問題、いわば岩見沢市のお子さんたちのライフステージにとって、それぞれあるわけですけども、何が足りていて何が欠けているのか、そんなところで必要な事業展開をしてきたというのが一つあります。言葉で言えば子育てなんですけれども、やっている中身というのはそれぞれバージョンアップをしていたり、新規ということで経済的な助成をしたり、とそういった積み重ねというのが大事なんだなというふうに思っています。例えば学童保育ではなくて、障がい児の療養、放課後デイサービスの関係なんかは最初は岩見沢市では社会福祉協議会で行って、つみき園 1 園だけでしたけれども、そこに福祉村が参入をさせていただいて 2 園、さらに 2 園と、さらに民間事業者さんにも参

入をいただいて、岩見沢市はその場合の自己負担額はゼロにさせていただいておりますので、かなり障がいを持たれたお子さんたちの放課後のデイというのは随分拡充できたと思います。市が直接やる仕事と市がサポートすることによって民間事業者と連携をとってやる仕事とかいろんなやり方があるので、そういった意味では拡充ができたかなという気もいたします。

(毎日新聞)

4年間の総括というよりもこれからのことだったんですけれども、先日決起集会で聞かせてもらって、市立病院の改築というのをおっしゃっていたと思うんですけれども、新しい元気八策には載っていなかったと思うんですけれども、それについてはどういうふうに考えていますか。

(市長)

それは個人的にはということでお断りをして発言した内容なんですけれども。今市立病院はどこの公立病院もそうなんですけれども、経営がかなり厳しい状況になってきています。市立病院を例で申し上げますと、消費税が1%上がると経営にとってはマイナス5千万円発生いたします。それから医師の確保というのもこれも共通の課題です。そういう経営を取り巻く環境、あるいは医療の高度化も含めて医療を取り巻く環境が厳しくなる中で、4年前と比べると、医師の数にしても10名以上増えてきています。消化器内科をつくって現在15の診療科を設けています。南空知の第2次医療圏の中で基幹病院としての機能の向上も図られてきたというところがあります。ですけれども、これからさらに時代が求めるもの、あるいは市民の皆さんや住民の皆さんが求めるような医療サービスということでは、施設的な限界があるのではないかという認識を持っているということで、あのよう個人的にはそういったことも検討しなければならないのではないのかと、申し上げたのです。

(毎日新聞)

個人的な見解といたしましても、仮に就任されましたら。

(市長)

市長だからといって、言えば実現できるというわけではないので、市民の皆さまにとってどういったことが必要なのかということを含めて、しっかりとした課題の抽出をして検討していかなければならないということになろうかと思います。そういった意味での検討です。

(毎日新聞)

岩見沢以外の三笠ですとか江別ですとか美唄ですとかそういったところとの医療の連携というのはどう考えていますか。

(市長)

そういったことも含めて南空知の医療圏構想の中で議論が進んでいくものだと考えております。それは公立病院との連携もあるかもしれませんが、民間病院との連携もあるわけでしょうし。

(プレス空知)

一期を振り返るといったところでは正直なところあまり触りたくないというか、話したくないといったところになるのかなと思うんですけれども、あえて聞かせていた

だくと、いろいろないい部分も成果として進んだ部分も出たんですけれども、市役所改革のところで人的な不祥事とかがありましたけれども、市長の4年の中でこれは自分の中で宿題というか、次また機会を与えていただけるのであればというところの思いというのをどの辺に置かれていますか。人的な部分だけではなくて他の部分もかまわないんですけれども。

(市長)

市役所改革、信頼が基本ですということは当初からお伝えしていたので、事務処理のミスというのは非常に残念なことでもありましたし、また事務処理のミスという表現では済まないような不祥事といわれるようなことも起きました。25年、26年というのはそういった事態は起きなかったんですけれども、27年に入ってから立て続けに起きたということについて、私自身も申し訳なく心から反省をしているところです。現在その再発防止といったことについて取り組んでいるところなんですけれども、今後は組織全体としてリスク管理というか、そういった再発が起きないような対策をしっかりと考えていかなければならないなと思っています。さらに自分自身のことに関しても本当に不明を恥じるばかりですけれども、一生懸命頑張っている職員もたくさんいます。その中でいろいろこういうことが起きると決して評価させることではないので、あらためて次の機会が与えられるのであれば自分自身のことも含めてしっかりと行政サービスを市民の皆さまに提供できるような体制の構築に向けて取り組んでいきたいなというふうに思います。

(読売新聞)

一期目というか二期目の話しになると思いますが、岩見沢市にとって最大の課題は何だと思えますか。

(市長)

これは全国どこの自治体も共通すると思いますが、人口減少だと思います。地方創生の関連だと思います。それをどう克服していくのか、あるいはどう対応していくのか。当然のことながら積極戦略も必要ですけれども、調整戦略も必要になってくる分野になってくると思います。そこの対応だと思います。そこはあらゆる施策というか、できることをフルパワー、フル活動していくというそういった考え方も必要になってくるんだと思っていますし、そういった考え方で総合戦略をまとめたところです。ただ、岩見沢市ICT基盤もそうですし、アクセスの良さもあります。豊かな自然もあって、今現在子育ての環境もトップレベルにきた。健康づくりという分野では北海道大学と連携したCOI事業と全国の自治体で唯一参加しているそういった事業の取り組みもできてきている。そしてこれまで行ってきた健康寿命の延伸も含めてですけれども、都市経営そのものに対する健康というキーワードの認識というか、そんなことも含めて6月には「健康経営都市」ということで認証もいただいたということもあります。健康ということで、地場産のおいしくて安全な農産物を作るなど、ビジネスというのも出来つつあります。そういった意味ではより岩見沢市にお住まいになっていただいている市民の方々の住環境とか生活の質の向上とかというのは当然なんですけれども、そのことにプラスアルファをして、例えば日本の中でリードをするようなトップランナーとしての地位を築くような健康経営都市というまちづくりの考え方とか

やり方とか、もしくは「食と健康の達人拠点」とか、さらにはICTロボット農業とかスマート農業の展開とか、そういう全国に評価されるような取り組みも一部、少しずつですけれどもできてきたのかなというふうに思います。そういったものを両面でより高い次元に向けて取り組んでいく必要性があるというふうに思っています。

2 その他について（記者からの質問）

質疑応答

（HBC）

今朝の新聞報道で一部あったり、先ほどPTAの方か申し出があったりなどの学校給食の異物混入の件なんですけど、この件に関して我々も事実関係を確認していないところがあるんですけど、まず経過を分かる範囲でかまわないので教えてもらっていいですか。

（市長）

私の方から報告を受けている範囲でお答えいたしますけれども、まず8月22日に食材を切り込むための包丁が破損している。その際欠損部分が見つからなくて春雨スープの提供を中止したというのが概要になるかと思います。現在でもその破損した欠損部はまだ発見されていないということなんですけど、包丁を使用した食材は人参と玉葱です。これが春雨スープの具材ということなんですけれども。即座に破損がわかった時点で、既に配送を終えていたので給食の中止ということを経済委員会から各学校に連絡をしたんですけれども、岩見沢地区の小中学校19校全校で献立は出されているのです。そのうち、12の小中学校、中学校は連絡した時点で一部または全部を喫食、その他の学校ではまだ喫食をしていなかったということです。調理所の検食、必ず作ったものを職員が食べて検食するわけなんですけれども、それでは異常はなかったと。また、各学校でも給食前に検食をするんですけど、それでも以上は報告されなかったと。

それで、保護者の方には経緯を記した文書を配布したと。発生原因なんですけれども、フードスライサーというのはチェックリストを作成して作業後に直ちに破損や欠損が確認できる体制をとっているんですけれども、包丁に関してはチェックリストを作成してなかったと。口頭での周知と目視での確認作業というふうになっていたと。それで、今回は欠損部の発見が12時近くになってしまったと。防止対策としては、民間事業者が委託を受けてやっているんですけれども、調理業務を行っている会社に当然のことながら再発防止を図ることで、東洋食品さんが受けているんですけれども、そこからチェックリストの作成とダブルチェック。それから調理師への周知徹底を図る旨の報告を教育委員会は受けているというような状況になっています。ですから恐れというか、異物混入があったということではなくて、異物混入の恐れあるいは疑いがあったということでそういった措置をとったというような状況だそうでございます。

（HBC）

今まで記者発表が無いということに対しては、どう思われますか。

（市長）

疑いということで混入判明していたわけではなくて疑いということで対応したということで。そこは教育委員会の判断でございます。教育委員会に聞きましたら、その点については今後検討していくということを書いていたということで、後でご確認いただければと思います。

(北海道新聞)

確かに今回は市教委が公表をしないという判断をされていて、市長は関与されていないということだと思っておりますけれども、特に公表する云々については市長部局は指示はしていないのですけれども、一方では市教委の管轄と言いながらも、たぶん市民の目線としては市の全体的な、市はどうかということを見ていると思っておりますけれども、それについて、やはり公表、早め早めに情報公開するというのが今重要な中で、健康被害の恐れがなかったから今回は見送りましたという市教委の話しなんですけれども、それでよかったんですか。

(市長)

私が公表云々という立場ではないんですけれども、その点については教育委員会として今後どのようにするのかということをはっきりさせるというふうに申し上げると言っていますから、その話をまず聞いての判断かなと思います。公表してかまわないというか、それはより適切な方法で。これが異物を混入してしまったということであれば待たずに公表して広く周知するということは必要でしょうし、事案事案で考えた結果なのかなというふうに思いますけれども。私のところに報告がきた時点で、こういうことで健康被害は起きてはいませんという報告であったのは事実です。

(北海道新聞)

公表について市長は今回適切とは思われているのでしょうか。

(市長)

何よりも健康被害の防止というのが一番何より大切なので、その点では教育委員会としては適切に判断して対応したのではないのかなと思います。それと、公表の問題については今後、しっかり検討していくということで、それはしっかり検討してくださいということです。

(北海道新聞)

公表がされていなかったということについてはどのようにお考えですか。

(市長)

第一に急いだのは各学校への配送を終えてからの対応だったので、そこと健康被害の確認に一生懸命対応したんだろうなというふうには想像はしていますけれども。それと公表の問題はしっかりと考えたらいんじゃないのかなと。言葉を換えて言うと、後からそれが市長選に向けてどうこうというようにいわれるようなことは、なんか決してプラスではないので。公表するというルールを作ると言っていますから公表していいんじゃないですかというのが、僕の考えなんですけどね。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)